

# リポート Report

大磯町郷土資料館だより  
2016・12・20

37

## 目次

- 2 | 常設展示リニューアルにあたって
- 3 | 常設展示案内
- 8 | 郷土資料館 28 年間の歩み

## 特集：郷土資料館展示リニューアル



城山荘本館 広間吹抜上部の再現展示（エントランスホール）

## 常設展示リニューアルにあたって

このたび、大磯町郷土資料館は改修工事を終え、リニューアルオープンしました。

相模灘の青い海と高麗山・鷹取山をはじめとする緑の丘陵は、太古の昔から豊かな恵みを約束し、様々な文化を大磯の地に育んできました。郷土資料館では、こうした大磯と周辺地域を含む豊かな風土の広がりを「湘南の丘陵と海」というテーマとしてとらえ、昭和63年10月の開館以降、博物館活動を進めてきました。

開館から28年間の活動の中、常設展示の小規模な展示替えは継続的に行ってきましたが、大型展示資料などの更新がされないことから、展示が変わっていないという印象があり、展示リニューアルの必要性が説かれていました。開館後20年が経過し、旧吉田茂邸の再建事業が進む中、郷土資料館も旧吉田茂邸と同様の県立大磯城山公園内の施設として整備計画が決定し、平成27、28年度の2ヶ年で常設展示の工事を行いました。

今回の展示リニューアルでは、常設展示室に展示していた御船祭の舟山車や竪穴住居の復元模型などの大型展示資料を撤去し、「別荘地 大磯」にかかわる近現代史に重点を置いた展示内容に変更しました。また、エントランスホールに、京都の安井杢工務店に保管されていた古材を活用して、城山荘本館の広間吹抜上部を再現し、かつて城山の地にあった城山荘の趣を感じられるような空間にしました。常設展示室の導入にあたる展示ホールも、更新前の大磯と周辺地域を詠んだ和歌・散文の紹介を活かしながら、大磯町内で出土した縄文土器を併設し、「大磯の風土とかたち」というタイトルで、太古の造形と詩歌文学の美を感じていただく構成にしました。

近現代史に重点を置いています。常設展示室には、考古、歴史、民俗、自然分野の28年間の収集資料を活用したテーマ展を展開し、郷土資料館の専門分野をバランス良く紹介しております。一新した展示を是非、ご覧ください。

### 常設展示リニューアルオープンまでの経過

昭和63(1988)年10月25日	開館
平成7(1995)年度	常設展示一部展示替
平成12年度	文化財保護と郷土資料館運営検討チームにより、常設展示の課題などを検討
平成17・18年度	常設展示室の一部を特別公開展示として利用
平成18年度	常設展示一部展示替(自然分野の追加)
平成20年度	常設展示一部展示替 / 教育委員会各部等重点目標により、「大磯町郷土資料館リニューアルプラン」報告書を作成
平成22年度	「大磯町郷土資料館展示リニューアル基本構想」報告書及び「大磯町郷土資料館展示リニューアル基本設計」報告書を作成
平成25年度	「大磯町郷土資料館リニューアル検討会議」開催(全8回)
平成26年度	「大磯町郷土資料館展示リニューアル工事実施設計」策定
平成27年度	展示リニューアル工事着手
平成28年11月3日	リニューアルオープン

## 常設展示案内

今回の展示リニューアルでは、常設展示室だけでなく、エントランスホール、展示ホール、廻廊、中庭も含めて、展示資料を更新し、幅広く活用できるような整備を行いました。リニューアルの概要を図と共に紹介し、考古、自然、民俗、歴史の各分野の見所をお伝えします。

### 中庭

休憩スペースとして整備しました。中庭のみ飲食可能とし、多くの要望があった食事場所の確保に努めました。

### エントランスホール

三井北家の別荘、城山荘の部材を保有していた京都の安井奎工務店と交渉し、部材をご寄贈いただき、展示設営しました。城山荘は、当館が立地する県立大磯城山公園旧三井地区に存在した別荘であり、その再現展示を当館の顔として位置付けています。

### 展示ホール

常設展示のプロローグとして、「大磯の風土とかたち」をテーマに、大磯の景観を詠んだ詩歌と、縄文人の感性によって形作られた縄文土器とのコラボレーションを目指しました。

### 廻廊

常設展示のエピローグとして、「湘南の丘陵と海を訪ねて」をテーマに、様々な展示活動を行う空間として活用します。

## 常設展示テーマ一覧

### A: いにしへの暮らし（考古分野）

A-1: 器の変遷 A-2: 横穴墓 A-3: 相模の国府

### B: 自然のいとなみ（自然分野）

B-1: 大磯丘陵の動植物 B-2: 大磯海岸の生物

### C: 祭りがつなぐ心（民俗分野）

C-1: 祈りのかたち

C-2: 海に願う祭り・大地に託す祭り

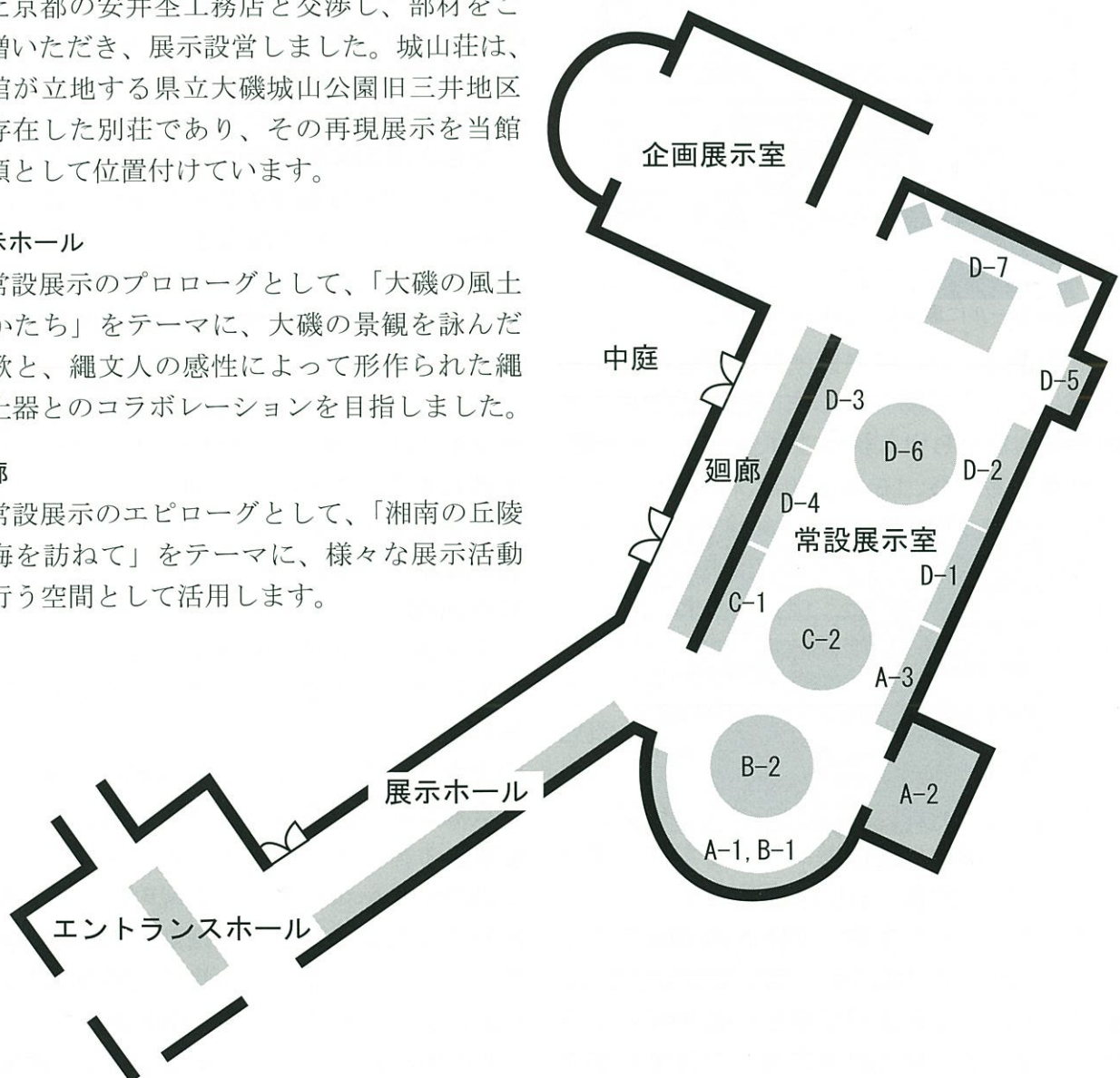
### D: 憧憬の地（歴史分野）

D-1: 大磯の寺と神社 D-2: 東海道大磯宿

D-3: 大磯海水浴場 D-4: 文学と大磯

D-5: 近代の象徴・煉瓦 D-6: ゆかりのある人々

D-7: 別荘文化



## A：考古分野の見所

考古資料に関しては、展示ホール及び常設展示室を展示箇所としています。展示ホールには元々壁面に大磯に関わる詩歌を紹介していましたが、壁面の前にステージを設置して縄文土器を展示し、詩歌からみた大磯の風土と縄文土器の「造形」をひとつとした、「大磯の風土とかたち」という導入部分としました。縄文土器は、縄文時代中期から後期にかけての完形に近い資料を概ね時代順に配置しました。縄文土器を資料として、また造形物としてのどちらの視点からもみていただくことができる場としています。



展示ホールに展示している縄文土器

常設展示室の曲壁ステージの冒頭は「器の変遷」という中項目としました。展示ホールの縄文土器から引き続いて弥生土器、土師器、須恵器を展示し、さらに陶器、磁器を加えて現代までに至る器の歴史を紹介しています。弥生時代は大磯町域においては良好な資料の出土例は少ないですが、中期の資料を中心に展示しています。土師器は古墳時代前期の台付甕などの資料と、古墳時代後期の甕、甗（こしき）などの資料を中心にしています。須恵器は大磯丘陵に集中している横穴墓群から出土した資料が中心となります。陶器と磁器は、出土資料のほか民家などに伝世していた資料なども含まれます。

横穴墓は、崖面を掘り穿ち、埋葬施設をつくる古墳の一種です。横穴墓は地域性が強く、密集して存在する地域は限られますが、大磯丘陵は全国でも屈指の横穴墓群の密集地域で

すので「横穴墓」という中項目として紹介しています。従来から展示している復元横穴墓は、大磯町内に存在する清水北横穴墓群5号を型取復元した上に、副葬品等の複製品を配して一般的な横穴墓の埋葬形態を再現しています。今回のリニューアルでは一見変化が無いように見えますが、より再現性を高めるために、横穴墓内の礫床の礫を実際の横穴墓で用いられていた礫に入れ替えてあります。

また、復元横穴墓の脇に、横穴墓の副葬品と考えられる須恵器の大甕を展示しています。本資料は、接合して石膏による部分復元を施してあった収蔵資料を、改めて解体し、再接合と樹脂による完形復元修復を施した資料で、今回が初公開となります。

なお、展示ホールのステージから曲壁の手すり、さらに復元横穴墓の枠は同一系統の深緑色に統一し、色をたどって考古資料を順にたどる設えとなっています。

相模の国府に関しては、従来大磯町内の関連遺跡と出土遺物等によって展示を構成していましたが、今回の展示では、「相模国の古代道と役所」と題した地図パネルを中核として、旧相模国内の大磯町域および近隣の国府関連資料を展示しています。

また、近代の資料に関して、「近代の象徴煉瓦」として展示コーナーを設けています。近代に建築資材等として導入された煉瓦は、近代を象徴する物質資料であるともいえます。煉瓦は、建築資材などに用いられる赤煉瓦と燃焼施設などに用いられ、白煉瓦ともいわれる耐火煉瓦に大別されます。近代の一大別荘地を形成した大磯においては、多くの煉瓦を用いた構造物がつくられます。赤煉瓦には社印や責任者印などを刻印した例があり、また耐火煉瓦にも社名などが記された製品の例があります。

当展示コーナーでは、大磯町域において発掘調査等により得られた煉瓦資料の内、刻印等を有する資料や、塊の状態で採集した煉瓦など特徴的な資料を紹介しています。

(当館館長／國見徹)

## B：自然分野の見所

### リニューアル前の自然分野の展示活動

開館当初、郷土資料館の常設展示は、自然分野の展示はなく、「湘南の丘陵と海」をテーマに、考古、歴史、民俗分野の人文系3分野の資料で構成したものでした。自然分野の展示スペースが無かった理由としては、開館直前に自然史資料を博物館資料として取り扱うことになり、展示設計段階においては、展示の対象になっていなかったためです。そのため展示活動は、企画展事業が主でした。平成元年7月から9月にかけて開催した夏季企画展「丘陵の動物－生活史を中心に－」に始まり、平成28年3月までに、計35回開催しました。

常設展示室において、自然史資料を展示するようになったのは、平成18年度からのことです。開館以来、常設展示のマンネリ化を防ぐために、展示資料の交換やレイアウトの変更を随時行ってきましたが、常設展示を印象付ける大型展示資料の御船祭の舟山車、竪穴住居がそのまま、基本的な展示テーマ構成を大きく変えることがなかったため、展示替えを行ったことに気づかない利用者も多く、十分な効果は認められませんでした。常設展示室の印象を変えるため、民俗分野の展示スペースを再構築して1ブロック減らし、新たに「大磯町の野鳥」をテーマとした展示スペースを新設しました。テーマを一新して、これまで展示資料として取り扱っていなかった鳥類剥製を多数展示したことで、常設展示室全体のイメージを変える結果につながったと考えています。

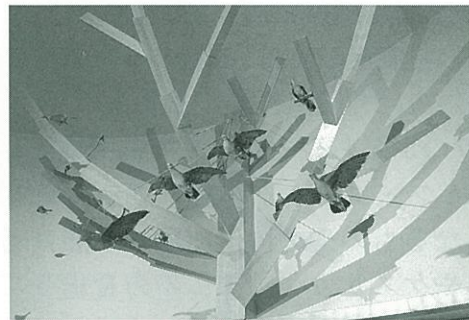
### 一新した自然分野の常設展示

新たな常設展示では、竪穴住居が展示されていたスペースを中心に、自然分野の展示を展開しています。展示更新のコンセプトは、28年間の博物館活動の成果を活かすとともに、特に「別荘地 大磯」にかかわる近代史、現代史に重点を置くことを中心に進められましたが、自然分野の展示は正に、28年間の博物

館活動の蓄積を示すものとなりました。

中項目のタイトルは郷土資料館のテーマである「湘南の丘陵と海」をもとに、「大磯丘陵の動植物」、「大磯海岸の生物」の2つとし、それぞれ丘陵で見られる生物、海岸で見られる生物について、実物資料を中心に展示を構成しています。

「大磯丘陵の動植物」の展示では、タブノキの樹形オブジェを展示のシンボルに据えました。樹形オブジェの下に展開する曲壁の展示台には、72体の鳥類剥製やそれぞれの季節を代表する植物の写真パネル等を展示し、丘陵の生態空間を表現しています。



タブノキの樹形オブジェ

「大磯海岸の生物」の展示は海のイメージを強く出すため、タイドプール（潮だまり）と岩礁をイメージした展示台にし、タイドプールの展示台には貝類標本33種、海藻押し葉8種を、岩礁の展示台には大磯町の“町の鳥”アオバトと、近年、産卵がたびたび目撃されているアカウミガメを展示しました。



岩礁をイメージした展示台

更新した常設展示では、自然分野の展示を常設展示室入口付近に、大きなスペースで展開しています。展示をとおして大磯町の豊かな自然の一端を感じていただければと考えています。  
(当館学芸員／北水慶一)

## C：民俗分野の見所



### 「湘南の丘陵と海」の恵みと人々の祈り

新しい民俗展示のキーワードは「祈り」です。大磯に暮らす人々は、さまざまな神仏に祈りを捧げながら暮らしてきました。新しい展示では、さまざまな方法で表現された「祈り」のかたちから、「湘南の丘陵と海」と人々との関わり的一端を知ることができます。

新しい常設展示では、「祈り」に関する資料を二つに分けて展示しています。

「祈りのかたち」では、大神宮（神棚）や荒神、エビス・ダイコクの像など祈りを捧げる対象となるものや、神仏に願いを届けるための絵馬やケズリカケ、神仏の力を借りて災いを祓うお札などを展示しています。これらの資料からは、祈りの内容や対象、方法の多様性をうかがい知ることができます。

たとえば新しく作られた船の飾りや船内に祀られるフナダマサマ、大漁を願う絵馬は、漁の安全とその成功を祈るものであることがわかります。一方で、虫送りのお札やケズリカケは、農作物を食い荒らす害虫を防ぎ、新しい年の豊作を祈願するものです。

漁業と農業に関する信仰が伝えられていることは、大磯に住む人たちが海だけでなく、海沿いに広がる海岸段丘やその背後に続く丘陵地帯を利用して、農作物を作る生活をしてきたことを教えてくれます。

「海に願う祭り 大地に託す祭り」では、小正月に行われる左義長や六所神社の国府祭、高来神社の御船祭など、大磯の代表的な祭りに関する資料を展示しています。

毎年5月に行われている国府祭では、「鷺舞」と「龍舞」、「獅子舞」という三つの異なる踊りが、六所神社を守護し、神饌を神のもとに届けるために奉納されます。その際に利用さ

れる鷺と龍の舞頭を展示しています。

2年に一度、高来神社の夏の大祭では、2艘の舟山車（祭り舟）が出ます。船祭とも呼ばれ、今も南下町・北下町が中心となって、舟の巡行が行われています。展示では、北下町の舟山車に飾られるサルタヒコをご覧いただくことができます。

それ以外には、白岩神社のヤブサメ行事や西小磯の七夕行事に関する資料を展示しています。

二つの展示を通じて示されるのは、大磯に生きる人々の「祈り」の多様性です。変化に富んださまざまな祈りのかたちが、現在まで伝承されてきたのはなぜでしょうか。

前述のとおり、大磯の民間信仰には農業と漁業に関するものが見られます。また、さまざまな祭りも、その根底には豊作や豊漁への感謝と祈りがあります。豊漁や豊作といった自然の恵みは「湘南の丘陵と海」によってもたらされるものであり、私たちは神仏を通じて、大磯の海と大地へ祈りを捧げているとも言えるでしょう。

それぞれの信仰や祭りを伝承する現在の私たちのなかにも、豊かな自然環境への感謝の念が少なからずあるのではないのでしょうか。今までも、そしてこれからも、私たちは、湘南の海と大地がもたらす恵みへの感謝と期待を、神仏を通じて表現していくはずで

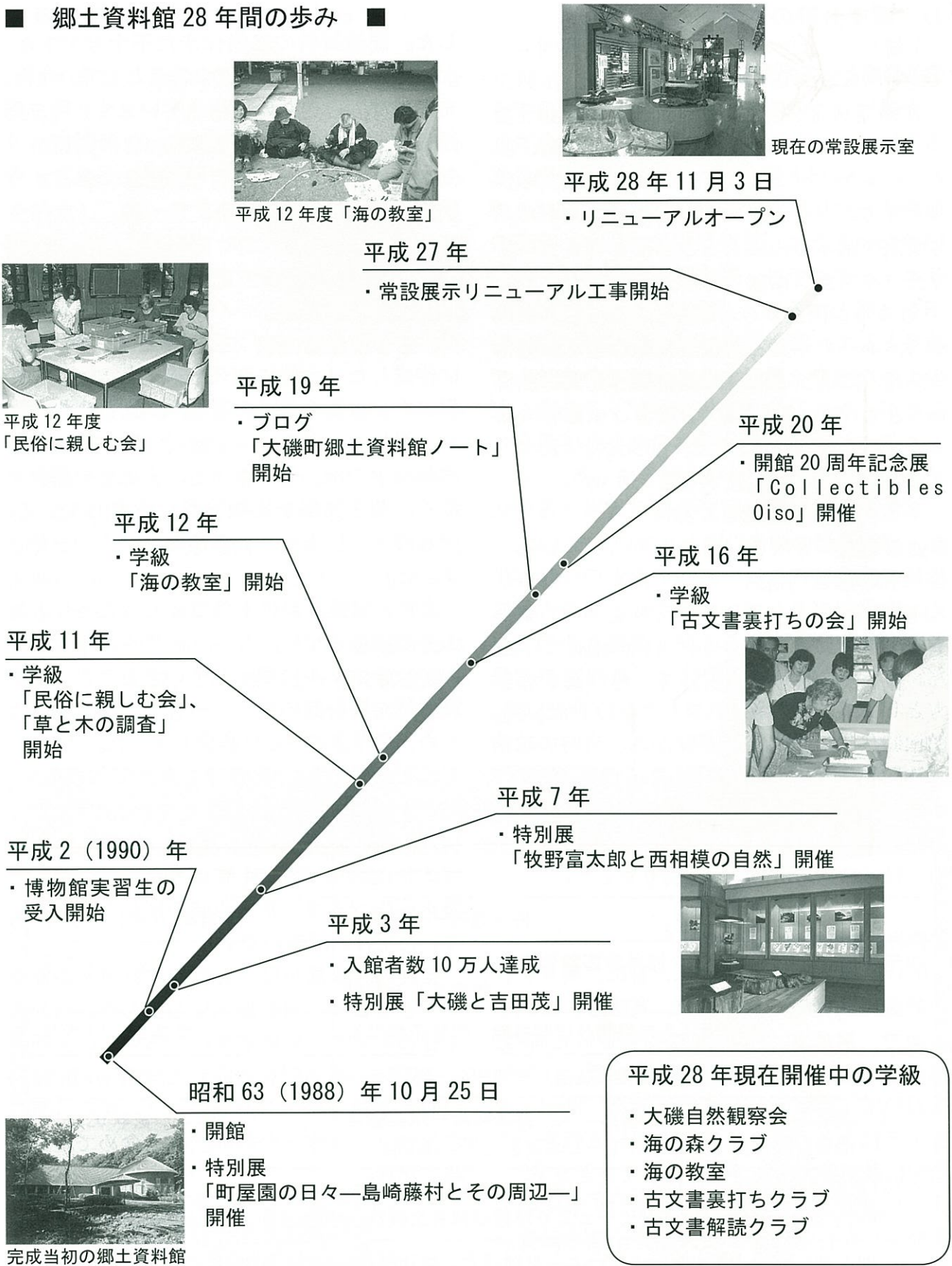
す。湘南の海と大地は、数々の祈りを生み出しただけではありません。近代における別荘地としての発展も、その根幹には美しい海と豊かな緑とがもたらす自然環境があったはずで

す。また、豊かな自然は数多くの生物のすみかとなり、多様な生物が生きる生態系を生み出しています。

近代の別荘地としての発展や大磯に別荘を持った人々、あるいは大磯の生態系については、他の分野の展示で知ることができます。新しい常設展示を見て、いま一度、足元にある大地と目の前に広がる海、そして人間の営みについて考えてみませんか。

（当館学芸員／川邊絢一郎）

■ 郷土資料館 28 年間の歩み ■



Report - 大磯町郷土資料館だより - No. 37  
 平成 28 (2016) 年 12 月 20 日発行

編集・発行 大磯町郷土資料館  
 〒 255-0005 神奈川県中郡大磯町西小磯 446-1  
 TEL. 0463 (61) 4700 / FAX. 0463 (61) 4660

■ 郷土資料館 28 年間の歩み ■



平成 12 年度「海の教室」



現在の常設展示室

平成 28 年 11 月 3 日

・リニューアルオープン

平成 27 年

・常設展示リニューアル工事開始



平成 12 年度  
「民俗に親しむ会」

平成 19 年

・ブログ  
「大磯町郷土資料館ノート」  
開始

平成 20 年

・開館 20 周年記念展  
「Collectibles  
Oiso」開催

平成 12 年

・学級  
「海の教室」開始

平成 16 年

・学級  
「古文書裏打ちの会」開始

平成 11 年

・学級  
「民俗に親しむ会」、  
「草と木の調査」  
開始



平成 7 年

・特別展  
「牧野富太郎と西相模の自然」開催

平成 2 (1990) 年

・博物館実習生の  
受入開始



平成 3 年

・入館者数 10 万人達成  
・特別展「大磯と吉田茂」開催

昭和 63 (1988) 年 10 月 25 日



完成当初の郷土資料館

・開館  
・特別展  
「町屋園の日々—島崎藤村とその周辺—」  
開催

平成 28 年現在開催中の学級

- ・大磯自然観察会
- ・海の森クラブ
- ・海の教室
- ・古文書裏打ちクラブ
- ・古文書解読クラブ

Report - 大磯町郷土資料館だより - No. 37  
平成 28 (2016) 年 12 月 20 日発行

編集・発行 大磯町郷土資料館  
〒255-0005 神奈川県中郡大磯町西小磯 446-1  
TEL. 0463 (61) 4700 / FAX. 0463 (61) 4660